11月号

ステパノだより

No.281

今月の聖句

『あなたは豊作の年を冠として
地に授けられます。』

詩編　第65編12節

◎11月の予定

1日(水)　秋の遠足(中)
　修学旅行(中)～11月2日
4日(土)　平塚市文化祭(ハンドベル部)
8日(水)　授業参観～9日
10日(金)　内部進学者考査～11日
　自宅学習日(中)
12日(日)　西地区陸上競技記録会
14日(火)　体験学習(転入)～16日
17日(金)　収穫感謝礼拝
20日(月)　期末試験(中3)～22日
21日(火)　日産車体見学(小5・6)
24日(金)　教職員協議会
29日(水)　期末試験(中1・2)～12月1日

◎12月の予定

2日(土)　学校説明会③
4日(月)　時間割変更期間(～22日)
13日(水)　入学願書受付(小)
　転入願書受付(小・中)～14日
15日(金)　子どもたちの祝会
16日(土)　クリスマス祝会
22日(金)　2学期終業礼拝・教職員協議会

運動会

10月14日、晴天に恵まれ、運動会を開催することが出来ました。コロナ禍をはさんだ影響もあり、久しぶりの一日通したプログラムでは、子ども達の真剣な顔や笑顔をたくさん見ることが出来ました。

◎今月の行事から

【授業参観】　11月8日(水)・9日(木)
今学期も授業参観が行われます。今まで通りの分散型にはなりますが、授業中の元気な様子を見て頂けると思います。保護者会は各学年クラスだよりでお知らせしますので、改めてご確認をお願いします。

【収穫感謝礼拝】　11月17日(金)
実りの秋、収穫の秋を迎えました。日々私達の食卓に並べられるたくさんの作物は、多くの方々の手を通り届けられているものだということ、そしてそこには神様の豊かなお恵みがあることを改めておぼえ、感謝を捧げたいと思います。
今年度から、ご家庭から果物や野菜の捧げものを再開します。ご協力をお願い致します。集められた品物は、大磯にある老人ホーム、冨士白苑に寄付させて頂きます。

【出前授業】　小学校
学校に講師をお招きして行われる「出前授業」が少しずつ再開されます。11月は小6の家庭科でハーゲンダッツ・ジャパンの方をお招きして授業をしていただきます。また、小5・6年の児童は、日産車体へ工場見学に出かけます。普段の授業とはちがう学びの場で多くの経験を積んで欲しいと思います。

聖書

校長　佐藤　紀明

7月の終わりに、サッカーでアキレス腱を痛めました。通院したところ、アキレス腱炎と診断されて全治一か月位と言われました。まともに歩けず、自宅でも二階に上がれない状態で、ずっと一階で生活をしていました。歩けないことは本当に大変だと痛感しました。

歩けない状態なので、TVを見たり、読書をする時間が長くなりました。体を動かすことが好きなので動けない状態はとてもストレスを感じました。ただ、読みたい本があっても時間が取れなかった中で、読書をする時間が確保できたことは、唯一の救いになりました。

特に『聖書』をしっかり読みたいと思っていたので、読むことができて良かったです。

聖書は、世界で一番読まれている書物です。発行部数は50億部以上とされています。あの『ハリーポッター』シリーズでさえ4億部ということを考えると、とてつもない数字です。

聖書と出会って人生が変えられた人、絶望から救われた人、生きる力を与えられた人が全世界に数えきれないほどいると思います。

人生で一度は読んでおくべき書物として、多くの人が聖書を挙げています。新約聖書に、聖書について、次のように書かれています。

聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をする上に有益です。（テモテへの手紙二3章16節）

「ルー・ウォーレス」という作家をご存じですか。アメリカ南北戦争の時、北軍の将軍であり、弁護士、州知事も務めた人ですが、キリスト教が偽りであることを証明しようと、『キリスト教撲滅論』を書き上げるために様々な調査を徹底的に行ったと言われてます。しかし、調査を進めていくとどうしても聖書の記述が真実であることを否定できなくなり、書きかけていた『キリスト教撲滅論』の執筆を途中で止めて、代わりにイエス・キリストの恵みを伝える小説を書き上げました。その小説がベストセラーになって、ハリウッドで映画化もされました。アカデミー賞11部門を受賞した有名な『ベンハー』という作品です。

万有引力の法則を提唱したニュートンは、「聖書にはいかなる世界の歴史より、確かな真理がある。」と語っています。さらに「太陽、惑星、彗星から成る極めて美しい天体系は、知性を持った実在する神の意図とコントロールがあって、初めて存在するようになったとしか言いようがない…。」とも語っています。万有引力の法則は、神を信じる信仰と神が創られた世界を解明しようという思いが土台となって、発見されたものだといえるでしょう。

米国のリンカーン大統領は、「人間にとって望ましいものは全て聖書の中にある。」と語り、劣等感の塊であった自分が大統領にまで抜擢された背景を伝えています。発明王エジソンは「聖書は、私達の生涯を造り変えることができる力の泉となるのです。」と語っています。

さらに彼は、「科学と信仰とは同一の源から出ているのであり、決して互いに矛盾したり衝突したりすることはあり得ない。」とも語り、数々の偉大な発明の土台にあるものとして、自身の信仰を挙げています。ドイツの詩人、ゲーテは、「私が獄に繋がれ、ただ一冊の本を持ち込むことを許されるとしたら、私は聖書を選ぶ。」と記しています。非暴力によって、インドを独立へ導いたマハトマ・ガンジーは、「私の生涯に最も深い影響を与えた書物は、新約聖書である。」と語ります。フレミングの法則で有名なアンブローズ・フレミングは、「聖書にある復活やその他の奇跡の記録を研究してみなさい。そうすれば、あなたは科学的事実や科学の原理の中には、何一つ、奇跡を信じることを妨げるものはないということがわかるであろう。」と語って、聖書の記述が非科学的だという主張に反論を唱えています。

天文学の父ガリレオ・ガリレイは、「聖書も自然現象も等しく神の言葉に由来している。」と語ります。偉人達の言葉は重みがあります。

聖書は、史実のみを伝えるものではなく、真理を伝えるものと学びました。神様からの愛のメッセージ、御言葉です。神様は聖書を通して、私達人間に話しかけてくださいます。

最近、悲しいこと、辛いことが続きました。それでも、私は聖書から希望と安らぎと癒しを与えられました。また、こんな私を支えてくれる大切な人達の存在に気づくことができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

変化を受け入れる

養護教諭　土橋　久美子

看板に偽りあり、を披露してしまうようで恥ずかしいのですが、今年に入り久しぶりに体調を崩しました。子どものころから割と丈夫な方で大きな病気はしたことがありませんが、特にここ数年は感染症対策に勤しんでいたおかげで風邪をひくこともなく、病院に行ったのは家族の付き添いを除けば年に一度の健康診断だけという、養護教諭の鑑のような健康状態だったのですが、少し油断をしていたようです。

少し休んでいればすぐに良くなるだろうと思っていましたが、あまり良くならず、これもまたずいぶん久しぶりに自分のために病院を受診しました。

診断結果はそれほど悪いものではなかったのですが、「薬を飲んでいるだけでは治りません。一旦、良くなったとしても体調不良を繰り返すことになるので、生活習慣を改めていきましょう」とのこと。若い頃に同じような体調不良に悩まされたことがあり、その時はいろいろと言い訳をして受診もせずになんとなく過ごしているうちに落ち着いたのですが、若さ故に体力が勝っただけの話で、根っこにある原因はまだ私と共にあったようです。医師の言葉がストンと入ってきました。しかし、生活習慣を変えるといっても日中は仕事があり家に帰れば家の事に追われ、毎日が嵐のように過ぎていく中で、改善できることなど皆無のように思えました。ですが、医師の指導を実践しないことには体調不良は治らないでしょうし、まさに数十年越しに症状を繰り返しているので「そんなこと言われても、いったいどうしたら・・・」と思いながらも自分の生活を振り返ってみました。

体調不良の時にするべきことといえば、睡眠時間の確保です。普段の起床時間は3時半から4時くらいですが、これを少しでも長くできないものかと考えました。結果、5時前くらいに起きることができるようになってきました。書くと5行で済んでしまう話ですが、体に染みついている就寝時間と起床時間をコントロールするのは本当に大変で時間がかかり、昨日うまくいったからといって翌日もうまくいくとは限らず、また朝早く起きて何をしているかと言えば家事をしているのですが、家事の時間を短くするということは外注したり省いたり諦めたりといったことになり、やるべき仕事を手を抜いているような罪悪感と戦ったりして、なかなかてこずりました。てこずりましたができるようになったことは、「大人になっても精神的な柔軟さを持つことはできる」という実感を伴います。

「もうこの年齢だから今から考え方や行動を変えるのは無理」ということはよく言われることではないでしょうか。やるべきことがあり、自分の時間を自分の意志で自由に得ることが難しいのは、大人であれば誰しも同じで、日々を同じリズムで生きていくことを求められがちです。自分の裁量で物事をコントロールできない状況というのはとても負担が大きいことで、ストレスチェックの質問でもよく聞かれることですが、そういった生活の中で自分の気持ちや体力をどこかへ押しやってしまうことは、長い目で見た時に健康への影響も生じるように思います。

一つの価値観が必ずしも絶対ということではなく、いくつもある選択肢がすべて正解だったり、ある状況では有効だった価値観が意味を持たなくなることもあります。

これまでの自分の考え方や行動をすべて否定する必要はありませんが、例えば周囲と考え方が違うと思ったり物事がうまく運ばないといった時には、自分の中に新たな考え方や行動を取り入れることで状況に変化が現れ、人間性にも広がりや深さが出てくるのかもしれません。

子どもほどわかりやすい成長ではないにしても、「大人も成長することができる」という実感は自信にもつながると同時に、子どもたちにお手本を示せることにもなると感じています。そのままでいいこともあるけれど、変わることを恐れずにこれまでとは異なることを受け入れることも悪いことではないのだと、毎日の生活の中で子どもたちにも伝えていきたいと思います。

～元教育実習生による座談会～

小学校１年担任　澤邊　嵩介教諭
小学校３年担任　佐々木　心教諭
小学校５年担任　赤田　祐章教諭
中学校２年担任　咲間　直人教諭

司会―今回の座談会では、ステパノで教育実習をされた先生方にお集まりいただきました。教育実習生だった当時のお話も含めて聞かせて頂ければと思います。まず赤田先生、今から何年前に実習にいらっしゃいましたか？

赤田―2000年に奉職する2年前なので1998年ですね。当時は2年生と5年生を見ていました。そのとき、2年生の担当が長谷川先生で、5年生の担当が佐藤校長でした。特に忘れられないのが、2年生の教壇実習で図工を1時間分やったことですね。実習自体の時期が少しずれて2月だったので、お雛様を焼き物で作ってそのステージも合わせて発表するという授業でした。カーテンもつけてお披露目するような感じで行ったのが記憶に残ってます。

咲間―だいたい今から15年前に奉職したのでその少し前ですね、2008年です。ちょうど石川先生と同い年の子たちを小学校2年生として見ていました。実習中で小1のやんちゃな男の子に「おまえなんかせんせいじゃねーだろ！」と言われたのが忘れられません。本当にそんなことを言う子がいるんだと驚きましたが、実際まだ先生じゃなかったので(笑)「たしかにそうだね」と返しました。その子は着任してからは懐いてくれて、聖書の授業も楽しそうに受けてくれたので一安心でした。ただ、それ以上に大変だったのが、実家が北海道だったので、部屋を借りて通ったのですが、とにかく道具がなくて、困りました。

司会―なぜこの学校で実習を行ったのか、そのきっかけを教えてください。

咲間―自分が学生のときにこの学校を訪れる機会が一度あって、すごくいい学校だな、というのを覚えていました。ただ、教員になるつもりは無かったので、地元で就職し、2年くらい働いていたのですが、どうしてもステパノのことが忘れられなかったんです。そこで、教員の道を考えた時、小学校の免許を取る際に、ここで実習がしたいと思い、お願いしました。それもあって、ここ以外で教員をするつもりは無くて、さらにそこで求められたのが、自身が培ってきた聖書科という事もあり、本当にお導きだったんだなあと感じています。

赤田―自分も実は教員になりたかったわけではなく、前の仕事を辞めた時に、学生時代の恩師である小川先生が声をかけて下さり、学校に来てみたところ、ある女の子の笑顔が、あまりにもまぶしく素敵で、ステパノの先生になりたいと思いました。そこから教員免許を取るために勉強を始め、実習もお願いした、といういきさつがあります。

澤邊―私は2016年に実習をしました。新校舎建て替えの時期で、11月に実習をさせていただいたので、2学期の中盤で、子どもたちもドキドキしているように見えました。もともとは心理学を学んでいて、スクールカウンセラーなどを目指していたのですが、週に1回の関わりより、毎日子供たちと関わっていたいな…と感じ、改めて教員に向けて学んでいくことにしました。その際、上戸先生と知り合いだったこともあり、ここでの実習をお声がけいただき、二つ返事でお願いをしたという経緯があります。実習時は、小2と小5を見させていただき、その時の小2が、今の中3なので、実習の時、あんなに小さかったのに…と成長を肌で感じています。時々、現中3と話すと、「当時の手紙、まだあるよ！」と言われたりして、小中一貫の繋がりがあるのは嬉しく思います。一月で小2と小5を担当すると、仲良くなってきたくらいで違うクラスになってしまうので残念でしたが、子ども達が協力してくれたので助かりました。

司会―実習中にもたくさんの先生に見て頂けるというのはステパノのいいところですね。

佐々木―今の中1が小4の時なので、3年前、2020年でした。コロナ禍でマスクをつけていたのが印象的でした。実習するまでステ

パノのことは知らなかったのですが、キリスト教の学校で実習したいという希望で大学３年の秋にステパノにきまり６月に行う予定だったんですが、コロナの影響で９月まで延期になってしまって。準備期間が膨大にあったので、既にやることが決まっていた『ごんぎつね』の教材研究に半年くらいかけました。コロナで期間が短縮されていたこともあり、２日目から授業をしたのですが、実際授業をしてみると大失敗。想定していた反応と全く違って、大学で学んだことが何だったんだ…と思うほどの衝撃でした。実習をやめたくなるほど、挫けました（笑）。最初の１週間は毎日のように泣いていました。でも、子ども達も、言葉は少ないながらも支えてくれて、私にとっては、辛いけれど濃くて楽しい日々だった記憶です。そんな思い出も含め、神様のお導きがあって、ステパノで働くことが出来ています。

司会―では実際勤めてみて変わったことや新しく学んだり得たことはなにかありますか？

赤田　毎日大変ですが、特に子供たちによって対応を変えるということの難しさを感じます。同じことを伝えたくても、はっきり伝える方が良く分かる子と、優しく諭す方が分かる子で違うので、そこで差をつけるのですが、それが上手に伝わらないな…と思っています。一回じゃ伝わらなくても、何度も繰り返さないといけないなと。自分のやり方はこう！と決めずに、様々な方法を試しながら、良い事、よくない事はしっかり伝えたいと考えています。勿論優しくして、いいよで済ませることは簡単なのですが、それでは子どもたちの成長にはつながりません。昨日できなかったことが今日出来るようになるために、日々アプローチの仕方を模索し続けること、またそれを受け止める子どものサポートをし続けることが教員の仕事だなあと感じています。あくまでも子どもたちファーストで向かい合っていきたいなと思っています。

咲間―もちろん教員としての技術や伝え方は成長したと思います。それに加えて「毎日の充実感」が得られたといえるかもしれません。時には忙しかったり大変だったりすることはあるにしろ、それも含めて毎日満たされているなと感じることばかりです。特に働き始めてから大きく変えたことはないかもしれません。ずっと一貫してぶれずにやってきてるように思います。

澤邊―今までのたよりに書いたこともありますが、実習の後に小川先生が自分にかけて下さった言葉の「人気のある先生よりも、いい先生になってください」についてふと考えます。先ほど赤田先生もおっしゃっていましたが、子どもたち一人ひとりに個性があるのでアプローチの仕方は異なりますが、だからこそ自分の中で一本強い軸を持つことは実習のときから変わらず意識しています。ただそのアプローチの仕方や対応は、色々な子どもたちに出会い、たくさんの先生たちと協力していくことで新たな扉が開くこともたくさんあります。優しく語りかけてみること、時には厳しく叱ること、じぶんのやり方それぞれに多くのエッセンスが入って少しずつ枝葉が伸びていくように広がっている感覚です。その枝はがいつか大きな木に成長し、花を咲かせることが目標です。それを考えてもまだまだ成長途中です！

佐々木―まだ実習から時間がたっているわけじゃないので、当時との比較というよりまだまだ発展途上なんですが、「正面から子どもに向き合うこと」の大切さを強く感じ、今も意識しています。もともと真剣に向き合うことが苦手だったんですが、実習中のある出来事を通してもし自分にとっては怖くてしんどいことでも、そのときに逃げてはいけないんだなと考えられるようになりました。それも神さまに頂いた経験として前向きに取り組んでいると、だんだん子どもたちと教え合い、学び合うことが楽しくなってきました。

司会―やはりステパノの先生方は神さまのお導きのおかげでよい先生が多いなと感じました。来年からの実習生もステパノの魅力に気づいてくれる人がいるといいですね。

【小学校】
保護者の皆さまもご一緒に・・・
「元気、やる気、本気」の運動会、終了後の日記をご紹介します。

今日、運動会がありました。紅白対抗リレーで、白組が2位になってよかったです!!
放送係のアナウンスもがんばれて、よかったです!!結局白組は負けてしまいましたが、全力を出せたと思います!!
修学旅行もがんばろう!!

6年　S・Z

今日は、小学校最後の運動会でした。今年は勝てるかなと思いましたが、やっぱり負けました。色々な人が『白組と赤組の力の差があるね』とか、『このメンバーじゃ勝てないよね』とか言っていて、たしかに言われてみたらそうだな…と思いました。
6年間負けているので残念でした。なわとびの、三回戦の回し方が速かったり、回し方もあぶなかったので、終わったら、もうがまんできないくらい、自分の心の中で怒ってしまいました。

6年　S・O

ぼくは、初めてのステパノの運動会に参加しました。運動会の前日は、中学生と一緒に鈴割りの手伝いをしました。ぼくは、立派な中学生を見て、『ぼくもそう成りたい』と思いました。
そして本番では、赤組が早く鈴を割ってしまいましたが、白組も最後まであきらめずに、最終的には割れました。
ぼくは、割れた鈴を見て、うれしさが止まらなくなりました。

6年　S・D

【中学校】応援合戦も再開し、大盛り上がりの運動会になりました。

運動会の思い出

中学1年　S・I

小学校の時に比べてやることがとても多かった中学校の運動会。今までと比べて練習がとても大変でした。

用具の係では、玉入れの玉の数のチェックや、プログラムの看板の設置もやりました。用具の人たちと力を合わせて、必要な用具がちゃんとあるかチェックしたり、次に使う物の準備をしました。

練習の時に「みんなでおどろう」と「栄光への道」は、まだ一回も練習していなかったので、小学生がやるのかと思いましたが、「みんなでおどろう」は予行練習の時に先生と生徒と保護者でおどると知って少し驚きました。そして「栄光への道」は、本番でやると知ってまた少し驚きました。

当日は、たくさんの人でにぎわっていました。本番では、練習の時よりも疲れませんでした。今回は、お母さんとおばあちゃんが来てくれました。うれしかったです。来年はもっとがんばります。

全力少年

中学2年　H・U

とにかく勝ちたい。勝ち負けだけが大事ではないといわれているが、勝ちたいのだ!!

応援合戦の練習が始まった。僕は今回は赤組である。赤組は最初から雰囲気が良かった。でも、仲が良い分ふざけてしまう時もあった。団長や先生に叱られたりもした。でも、そのおかげで皆の心にだんだんと火がついて、ふざけも笑いもとっぱらって、まっすぐ真剣にやることが格好いいという雰囲気が出てきた。いつの間にか自分でもびっくりするくらいの大声で応援合戦に参加していた。向こう側から白組の迫力のある声が聞こえてきて、もっと頑張ろうと思わせてくれた。

団長に勝ってほしい。団長はずっと声を出してチームを鼓舞していた。厳しく優しかった。

僕はそんな団長率いる赤組が大好きで、毎日張り切って学校に行くことができた。学校が楽しくてたまらなかった。

遂に本番。

「最後まで全力を出しきるぞ。きっと大丈夫。」

先輩も後輩も関係なく皆が声をかけ合って僕達は入場。赤組も白組も最後まで勝敗が分からない最高の応援合戦だった。

判定のうちわは赤組が4枚、白組が2枚、赤組が勝ったのだ!!皆で一生懸命頑張ってきたから本当に嬉しかった。中学生の応援席は嬉し涙も悔し涙もあった。皆、家族みたいだと思った。

今年、中学生の演技のテーマ曲は「全力少年」だった。果たして僕は全力少年になれただろうか。

二梃木先生から

「今はあまり無理する必要はないと言われることも多い時代だけれど、勝利っていう一つの目標に向かって頑張ることもやっぱり大切なんだ。」

というお話があった。僕はずっとこの言葉を忘れないで、まっすぐ生きる大人になりたいと思いました。

ステパノ最後の運動会

中学3年　S・S

２０２３年度、10月14日、土曜日。私にとってステパノでの最後の運動会がありました。

私は、赤組の団長でした。伝えられた時はそんな大役が自分に務まるのかなという大きな不安がありました。そして久しぶりの応援合戦の練習もあって本当に不安でいっぱいでした。人数は集まらないし、声も出ない。突きも全然そろわないしで、どうしようかなとか、このままいって勝てるのかなとかずっと思っていました。けれど、練習を重ねる度に、返事もしっかりしてくれたり、突きも出来るようになって声も皆出せるようになって正直、感動しました。赤組は、先生に叱られることがあっても、決してめげずにやり切ってくれました。そして本番、赤組と白組の発表でした。赤組全員が一致団結して、見事に勝つことが出来ました。その瞬間すごく嬉しくて、泣きそうになりました。白組の団長、Mと対等に戦えて、よりMとの関係も深まった気がします。

私は、本当にステパノ最後の運動会が赤組の団長で良かったし、赤組の皆と協力して戦いに行けたことが心から嬉しいです。私は皆のおかげで団長が出来たと思っています。本当に一生の思い出になりました。先生方や赤組の人たち、そして白組の人たちに本当には感謝でいっぱいです。私を赤組の団長にしてくれてありがとうございました。すっごく心に残る運動会になりました。

来年もその先もずっと応援しています。本当にステパノ生でよかったと思います。

秋の気配が感じられる九月、本校の創立七〇周年記念礼拝と記念式典が行われました。創立者である澤田美喜先生は、三菱創業者・岩崎彌太郎の孫として、一九〇一年九月十九日に誕生されました。戦後の混乱期に孤児となった多くの混血児の命と教育のため、エリザベス・サンダース・ホームと本校の設立を四十代から五十代のご年齢で実現された美喜先生は、生まれた時からその使命を持っておられたとの受け止めから、先生のお誕生日が本校の創立記念日となっています。

午前中に行われた記念礼拝では、祝花が並び、厳かな雰囲気に包まれた「海の見えるホール」に、在校生と教職員が集い、お祈りをお捧げしました。聖歌を歌う児童生徒の皆さんの朗々とした声が響き渡る様子が大変印象的で、理事長の森田利光先生も穏やかな笑顔を向けておられました。司式を務められた島田征吾司祭のお話では、聖書の「コリントの信徒への手紙」について、『信仰と希望と愛』の中で、『愛』が最も偉大」であり、「信仰と希望は、愛が無くては成り立たない」と、説かれました。また、校長の佐藤紀明先生は、「『信仰と希望と愛』は本校の原点であり、歩みである」と述べられ、常に忘れることのないよう、〈Faith〉〈Hope〉〈Love〉の言葉が小学校校舎の外観に掲げられていることをお話されました。

永年勤続表彰では、勤続十五年の咲間直人先生が、前学園長の小川正夫先生と出会い、本校を見学したことから教職課程で学ばれた経緯をお話され、「皆さんが魅力的な子どもで、共に過ごす時間が幸せだと感じてきました。幸せな気持ちで一杯です」と語られました。

礼拝後には、上戸基夫先生の指揮によるハンドベル部の演奏と、音楽科の能條貴大先生のピアノ演奏が行われました。ＮＨＫテレビ体操・ラジオ体操のピアノ演奏者としても活躍されている能條先生が、「今日は皆が楽しめる曲を」と、会場からリクエストを募り、ディズニーソング等を演奏して下さる贅沢な時間には、次々と手を上げて伸びやかに参加する在校生の姿が微笑ましく感じられました。最後に、ショパン作曲「英雄ポロネーズ」の演奏があり、喜びを祝う会が幕を閉じました。

午後の記念礼拝・式典は、多くのご来賓と、ご退職された教職員の方々も参列された温かい会となったそうです。保護者を代表して参列されたＳＡ中学校代表の夏目奈巳さんは、「神様を中心に、先生方が常に謙虚な姿勢で子ども達と向き合ってこられた事が本校の堅固な土台」なのだと感じられたそうです。

次号では、記念式典でご講演された前理事長・前学園長の小川正夫先生のお話をお届けします。

STEPHEN'S NEWS

日本漢字能力検定

三級合格	中三	O・H
〃	中三	A・K
四級合格	中三	S・S
〃	中二	U・N
〃	中二	S・H
五級合格	中三	K・H
〃	中一	H・R
六級合格	小六	S・H
〃	小六	S・D
〃	小六	T・G
〃	小六	S・Z
七級合格	中一	G・T
〃	中一	H・S
〃	小五	O・Y
八級合格	小四	I・R
〃	小四	S・M
〃	小四	Y・H
九級合格	小五	O・T
〃	小三	E・Y
十級合格	小六	T・K

実用英語技能検定

四級合格	中一	K・R

発行者　聖ステパノ学園小学校・中学校
校長　佐藤　紀明
ステパノだより編集委員会
〒255-0003
神奈川県中郡大磯町大磯８６８
ＴＥＬ　０４６３-６１-１２９８
ＦＡＸ　０４６３-６１-９７３９
http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇二三年十一月二十四日（金）発行第281号